

第2回リハビリテーション科専門医会学術集会報告

リハビリテーション科専門医会

2007年12月8日と9日、北海道大学学術交流会館で第2回リハビリテーション科専門医会学術集会が行われた。初日は午後1時からの開始であったが、最近降った雪は融けており、比較的好天に恵まれた。2日目は雪がちらつく天候ではあったが、200名を超える参加者があり、両日も会場は熱気に包まれ、活発な討論が行われた。



1日目はまず総会が行われ、議長には中馬孝容先生、副議長には高橋秀寿先生が選ばれた。システム委員会の進行状況について園田茂先生から説明がなされた。順調にいけば来年7月にリリースされ、このシステムを専門医会も利用できるようになること、今後は中身が重要になることが報告された。リハビリテーション科専門医の需給に関するWGについては、佐伯覚先生から中間報告として本学術集会のパネルディスカッションで発表する予定であることが報告された。山田深特別委員から専門医名と施設名の公表をホームページ上でおこなっているが、引き続き公表に協力をお願いしたいことが述べられた。正門由久幹事長から専門医会幹事の選出手順の改正について提案され、審議の結果、現在の幹事の任期を2008年12月9日まで延長し、その後専門医会幹事選挙は2年ごとの専門医会学術集会開催時の総会で行うことが承認された。次に、本年度の現学術集会について生駒一憲副幹事長（代表世話人）から概要が述べられた後、第4回専門医会学術集会の代表世話人に朝貝芳美先生が選ばれ、2009年10月に諏訪で行いたいことが述べられた。続いて菊地尚久先生と出江紳一先生から2008年の日本リハビリテーション医学会学術集会（横浜）の時に専門医会として2日目に3時間の枠があり企画を検討していることが述べられ、佐伯覚先生と池田聡先生から2008年12月6日と7日に福岡市都久志会館で行われる第3回学術集会について説明があった。専門医会の活動に関して、正門幹事長からリハ科専門医間の交流・情報交換のためシステム作りを提案し、これが発展してリハ医学会の事業となったことや学術集会の開催、専門医の質の向上、研究・調査、広報・啓発などの専門医会の事

業について説明が行われた。これに対し会場から特に異議は出なかった。最後に、豊倉稔先生から第45回日本リハビリテーション医学会学術集会の説明がなされた。また、国際委員会から国際リハビリテーション医学会 (ISPRM)に関する会員意向調査への協力要請がきていることが述べられた。



総会の後、「リハ科専門医の需給を考える」と題するパネルディスカッション(座長は佐伯先生)が行われた。近藤克則先生、渡部一郎先生、専門医会WG委員(菅原英和先生、水野勝広先生、瀬田拓先生、吉田輝先生)から発表があり、医師不足が明らか

なこと、リハ科専門医の必要性を示す必要があること、関連職種の大幅の増加が今後見込まれるが教育と質の向上が重要であること、リハ科専門医は約3000～4000名が必要なこと、などが述べられ、活発な討論が行われた。このセッションは医療専門の新聞社から取材があり、注目度が高いテーマであることが窺えた。その後、松元秀次先生により「最新のリハビリテーション—痙縮のマネジメント」(座長は園田先生)、竹内直行先生により「最新のリハビリテーション—脳卒中と経頭蓋磁気刺激」(座長は出江先生)と題して教育講演が行われた。

その後、北海道大学構内にあるエンレイソウにバスで移動し、意見交換会が開催された。これは専門医会としては発足後初めての懇親の場であった。生駒代表世話人、正門幹事長の挨拶の後、江藤文夫理事長からもご挨拶をいただいた。そしてご自身の著書2冊を参加者に進呈していただいた北海道地方会幹事の岡本五十雄先生により乾杯の発声が行われた。意見交換会では各新専門医から挨拶があった。最後に池田先生から第3回専門医会学術集会の説明と意見交換会閉会の挨拶があり、1日目が終了した。

2日目は「脳性麻痺の訓練治療のあり方—ガイドライン委員会の報告を踏まえて—」(座長は朝貝芳美先生)と題しシンポジウムが行われた。朝貝先生、岡川敏郎先生、近藤和泉先生、高橋秀寿先生が講演され、最新の脳性麻痺治療について討論が行われた。次に長坂誠先生により「最新のリハビリテーション—心血管疾患の電気刺激療法」(座長は菊地先生)と題して教育講演が行われた。最後に、安保雅博副幹事長が専門医会として閉会の辞を述べ、通常の学術集会は終了した。



午後からは北海道大学病院で経頭蓋磁気刺激実技セミナーが開催された。これは専門医会の研修事業に位置付けられるもので、実技形式のセミナーは初めての試みである。これは注目されたようで、病院内の実際の検査室で行うため定員が12名と少なかったこともあるが、受付開始日に定員に達する状況であった。約30分間の経頭蓋磁気刺激についての講義の後、二つの検査室に分かれ約2時間参加者が実技を体験した。このセミナーの終了をもって、全スケジュールが無事終了した。

最後に、今後のリハビリテーション科専門医会学術集会をより実りあるものにするため、どのような形でもよいので是非参加者からのフィードバックを戴ければ幸いである。来年の専門医会学術集会は福岡での開催であるが、専門医会が名実ともにさらに発展し、今回以上に多数の参加者があることを願ってこの稿を終えたい。